

自衛隊体育学校 オリンピックの成果を部隊精強化へ

宮本2海曹世界水泳決定



BHP4カ国対抗OWS

2月1日、オーストラリアのペースで行われたBHP4カ国対抗水泳競技大会においてオープンウォータースイミング10kmにおいて宮本陽介2等海曹が日本人トップとなる24位、1時間53分02秒の成績を残した。オープンウォーターは、海上で行うため、試合ごと会場となる海の状況や、天候、特に潮汐の流れの違いで記録が変わるため、成績の良し悪しを判断する物差しとなるのがタイムではなく、トップとの差が重要となり、宮本は今大会ではトップとわずか25秒10の差となり、日本水泳連盟が設定している指定強化のAランク（世界選手権及びW杯等の国際大会でトップとの差36秒50以内）をクリアするレベルと同等と考えられる。この大会には欧州の強豪選手は出場していないもののオープンウォーターの先進国であるオーストラリアの選手がこぞって参加したため、レベル的には高い大会であることから、宮本の成績が評価された。この結果、宮本は今年の世界水泳オープンウォータースイミング10km代表に内定した。リオ五輪では、出場選手が開催国枠1、その他24で合計25枠。世界水泳で10位以内に入れば出場枠が与えられる。日本のオープンウォーターの歴史はまだ浅く、世界水泳10位以内は簡単なことではないが、かつて宮本は2011年の世界水泳1500mで8位入賞を果たしている。宮本には是非オリンピック出場枠を獲得してもらいたい。

BHP4カ国対抗で好成績

柔道ヨーロッパオープン

日本陸上20km競歩

濱田2曹準優勝



2月15日、オースリア、オーバーバルトにおいて柔道ヨーロッパオープンが開催された。今大会は世界選手権代表選考に重要な影響を持つ大会と位置づけられ、女子78kg級に出場した濱田尚里2等陸曹にとっては負けることが許されない試練の大会となった。濱田は初戦2回戦、ロンドンオリンピック70kg級銀メダルのケルスティン・ティエレ（ドイツ）を2分12秒押さえ込んで一本勝ち。続く準決勝ではサランキ・イブリン（ハンガリー）をわずか7秒で小外掛けに仕留め一本勝ち。決勝は講道館杯王者の梅木真美選手（環太平洋大学）と対戦。立ち上がり濱田が積極的な攻めを見せ、相手が防戦状態となり試合開始32秒、梅木選手に指導が与えられる。濱田が有利となったが、ここから梅木選手が内股や寝技を仕掛け試合を少しづつ作っていく。そして試合開始2分12秒、場外ギリギリのところで梅木選手が腰車を決め、濱田は惜しくも一本負けとなる。昨年の講道館杯で3位になりナショナル入りを果たした濱田にとって、今回はグラウンドスラム東京に続く重要な国際大会であったが、悔しくも準優勝に終わった。

2月15日、兵庫県六甲アイランド甲南大学周辺公認コースにおいて第98回日本陸上競技選手権大会男子・女子20km競歩兼第15回世界陸上選手権大会代表選考競技会が開催された。試合は高橋栄輝選手（岩手大学）、鈴木雄介選手（富士通）の2人が日本新記録、しかも2013年以降世界ランキング最速記録で歩く好レースとなった。荒井広宙2等陸曹が彼らに続く、第3位、記録的にも自己ベスト1時間20分35秒の好成績を収めた。アジア大会50km金メダルの

谷井孝行2等空曹は、試合開始前に突然すねを痛めるアクシデントに襲われ、苦しい中でのレースとなったが1時間24分01秒でタイムを刻み12位。世界陸上50km競歩代表に内定している荒井と谷井は世界陸上を睨み、高速レース対応への現状確認のためのレースであったが、荒井はスタート直後から第2集団を引っ張り、あくまでも1km4分、5km20分という自分のペースを貫いて、3位という順位を引き寄せ、記録的にも20km競歩の派遣設定記録Bを突破する好調ぶりをアピールした。

柔道ヨーロッパオープン



世界陸上に向け順調さをアピールした荒井2曹